

# 第9回社会教育委員会議 協議資料

## 1 報告書のタイトル(協議テーマ)

### 地域課題に対応する社会教育の在り方について～災害の経験から考える～

⇒(前回)地域課題に対応する社会教育の在り方について～災害を例に～

## 2 報告書の構成

### 2-1 目次・項立て

はじめに	
1 協議テーマについて	
①	社会的背景
②	社会教育を取り巻く状況
③	協議テーマの選定
2 災害の経験から見えてきたこと	
①	各委員の意見
②	社会教育でアプローチできる課題
3 社会教育が果たすべき役割	
①	ひとづくりの視点から
②	つながりづくりの視点から
③	地域づくりの視点から
4 明日の地域を創る5つの提案	
①	地域のリーダーを発掘・養成します
ア	社会教育士資格の取得奨励
イ	有資格者の活用
ウ	リーダー養成研修
エ	リーダーによるネットワークの構築

② ICTについての学習を推進します	
ア	生涯学習センター
イ	デジタルバйдの解消
ウ	子どもの大人に対する学習
③ 全員ボランティアを実現します	
ア	ボランティア学習の機会提供
イ	地域のボランティア活動への参画
ウ	マッチングアプリでコーディネート
エ	現役世代のICTを活用したボランティア
オ	何もしないボランティア
④ 多様なネットワークを構築します	
ア	ICTを活用した地域外とのつながり
イ	多様な切り口でのつながり
⑤ 避難所を学習拠点として活用します	
ア	サタデースクール
イ	身近な学習環境の充実
ウ	防災教育
おわりに	

## 2-2 記載内容の概要

### 1 協議テーマについて

#### 内容

○「災害」をテーマとした背景・目的を記載。  
⇒記載例(概要)札幌市は比較的災害の少ないまちというイメージであったが、胆振東部地震等の災害を経験したことで、市民自らが地域課題に向き合うきっかけとなった。そうしたどの地域にも共通の課題といえる「災害」の経験をもとに、社会教育が果たすべき役割とは何か、協議することとした。

### 2 災害の経験から見えてきたこと

#### 内容

○これまで話し合われてきた協議の内容が見えるよう、各委員から出された課題等の様々な意見を「災害の経験から見えてきたこと」として、整理して記載。  
○記載した意見のなかから社会教育でアプローチできる課題を抽出し、提案へ結びつくよう、次項以降で展開していく。

### 3 社会教育が果たすべき役割

#### 内容

○前項で抽出した課題を、文科省中央教育審議会答申の内容を踏まえ、「ひとづくり」、「つながりづくり」、「地域づくり」の視点で整理し、そこから見えてくる、社会教育が果たすべき役割や、今後求められる方向性を記載。

### 4 明日の地域を創る5つの提案

#### 内容

○前項で記載した3つの視点に基づく、方向性等をもとに、今後取り組むべき具体的な方策を記載。

#### ①地域のリーダーを発掘・養成します

- ア 社会教育士資格の取得奨励  
⇒企業やNPO等で、新たに広く活用できることとなった資格を取得奨励し、専門性のある人材を地域に増やす
- イ 有資格者の活用  
⇒専門性を持ちながら地域で活用しきれていない、潜在的な人材の有効活用
- ウ リーダー養成研修  
⇒リスクシナリオを考え自ら行動することのできるリーダーを養成する
- エ リーダーによるネットワークの構築  
⇒地域に既に存在している異なる分野のリーダーによる共有の場をつくり、様々な視点で地域を学び、活動に取り組む

#### ②ICTについての学習を推進します

- ア 生涯学習センター  
⇒ICTを活用した時間や場所に制限の無い学習機会の提供
- イ デジタルバйдの解消  
⇒高齢者等が有事の際に情報弱者に陥らないよう、必要最低限のスキルを身に着ける学習の推進
- ウ 子どもの大人に対する学習  
⇒スマホの機器操作等、子どもの方が詳しいと思われる分野について「子どもを先生」に、あるいは子どもと大人と一緒に探求していくような学びのスタイルの実践(サタデースクールの活用)

#### ③全員ボランティアを実現します

- ア ボランティア学習の機会提供  
⇒地域活動を自分ごととして捉えるきっかけづくりとして、ボランティアについての学習機会を提供
- イ 地域のボランティア活動への参画  
⇒ボランティア活動を通じて地域を知ってもらう
- ウ マッチングアプリでコーディネート  
⇒ある程度の匿名性を維持し、気軽に参加しあえるボランティアの仕組みづくり
- エ 現役世代のICTを活用したボランティア  
⇒仕事の合間を縫って、メールで相談を受ける等、少しの時間でも行えるようなボランティア活動の実現
- オ 何もしないボランティア  
⇒「レンタルなんもしない人」を例にボランティア活動の在り方の検討

#### ④多様なネットワークを構築します

- ア ICTを活用した地域外とのつながり  
⇒特定の地域に限らず、ICTを駆使して様々な団体がつながりを持って、協働する
- イ 多様な切り口でのつながり  
⇒人々の多様性を尊重し、多様なつながりの持てるきっかけづくり

#### ⑤避難所を学習拠点として活用します

- ア サタデースクール  
⇒サタデースクールをプラットフォームにする
- イ 身近な学習環境の充実  
⇒図書館や地区センター、更には企業やNPO法人等と連携し、学習環境を充実させる
- ウ 防災教育  
⇒避難所を学習拠点に位置付けることで、避難所を知ることにつながる